

カスガ先生の回答に納得・安心・感動

[評者] 北原和子 福島県立医科大学附属病院副院長・看護部長

「治らない」時代の医療者心得帳

カスガ先生の答えのない悩み相談室

春日武彦 著

四六判, 196 ページ

定価 1470 円 (本体 1400 円 + 税 5 %)

医学書院 TEL. 03-3817-5657



昨今の医療の変化を考えると、医療を提供する側は、選ばれる病院をめざして「安全・安心の医療」および「患者サービス向上」に努力するようになり、一方で医療の受け手には「権利意識」が高まっています。このような時代背景のなかで医療従事者は、患者さんのニーズに応え、よい上司や頼れる同僚でありたいと願いながら必死に仕事をしていると思います。

それ故に、本書『「治らない」時代の医療者心得帳——カスガ先生の答えのない悩み相談室』は、今の時代にヒントになる一冊であると思います。医療者であれば身近に体験している事象がQ&A形式で取り上げられ、カスガ先生の回答に妙に納得できたり安心できたり、また明快な答えに「こういう考え方や対応があるの?」と感動できます。

■「何かあったらどうするんですか!」の問いに

現代人、特に若い人には、マニュアルや正解を求める人が増えています。また、変化や異例なことがあると、不安が先に立ってしまう傾向にあります。そして追い詰められると理屈や正論による説明を嫌い、まさに著者が書いているように「今すぐ何とか自分が楽になる解決方法はないものか」と、焦りや怒りをぶつけてくる場面によく遭遇します。

特に私が師長になってから体験したこととして、何度となく「何かあったらどうするんですか!」と、スタッフや師長から言われました。そのたびに「何もないように、看護師として今までの経験を活かし全力を尽くせばいいのよ。それで何かが起きたときは私が責任を取りますから」とにかく何も起きないように努力して看護すればめったなこ

とは起こらない、大丈夫、と心の中で叫ぶ)というような対応をしてきました。しかし「わかりました。やってみます」という気持ちのよい反応はなく、どちらかと言えば相手は無然としていることが多かったように感じています。

本書に書かれている相手の行動や心理の分析と、それへの対し方を読み、私の傾向として、相手の本音や感情に沿う答え方ではなく、正論で対応する術しかもっていないということを今さらながら実感したところです。

■不器用な自分も愛おしいと思える

また、本書に出てくる「切り返し」の術や「演じる」という対応も、私に不足しているところでした。真っ向から意見を投げられたときムカッと血が上りやすい人は、本書を参考にトレーニングして対応すれば、感情的にならず場の雰囲気や緩和でき、「大人だ」と言われるようになるかもしれません。

しかし、本書を読むなかで、不器用な自分も愛おしいと思えるようになりました。カスガ先生のようにいろいろな事象に対して冷静沈着に、多角的な見方・考え方ができれば最高です。けれども人は、とっさの場合に「切り返し」の言葉が見つからなかったり、思惑通りに「演じる」ことができないのが常だからです。

この本を読んで得た一番の心得は、コラムにあるように、遊び心をもって対応することだと思います。そしてもうひとつ大切な心得は、病院はすべての病気を治せるわけではない＝「治らない」時代では、患者も家族も医療者もみんな不安をもち悩みながら生活し、仕事をしているのだということを知ることでないでしょうか。